題字：石野 華鳳
（書家　小松市出身）

更生保護 小松能美

第16号
2024年（早春号）

大好きな能登半島に心を寄せる

会長　和田　慎司

新年を寿ぐ元日にまさかの大地震が能登半島一円を襲った。小学生の修学旅行で見た美しさに憧れ、大学時代は夏の合宿後に必ず友人たちを能登に案内した。その見附島・恋路海岸・窓岩・千枚田・漁港や朝市・家並みは姿を大きく変貌した。悲しみは深く辛い。

住まい、仕事、子育て、介護など10万住民の語り尽くせない不安を思うと胸が痛む。17年前に2日行ったボランテイアは今回も申請しており、小さな力だが早く現地に入りたい。

だが被災者荒らしの犯罪が止まらない。大地震は天災だが、犯罪は人災だ。私たちも大好きな能登半島に心を寄せ、物心すべてに心配りし、早く日常が戻れるよう努めましょう。

＊皆様の見舞金を能登保護区に届けました＊

新年研修

令和6年1月17日おびし荘において、金沢保護観察所上岡靖之所長を講師として「生きづらさと非行・犯罪」をテーマに新年研修が開催されました。

小松支部中分区　吉本 慎太郎

今年度の「社会を明るくする運動」のスローガンが「生きづらさを生きていく」なので、講演テーマも「生きづらさと非行・犯罪」というものでした。近年、医学的にも「生きづらさ」の研究は進んでいるとの事でしたが、対象者はそれぞれの事情の「生きづらさ」を抱えてきたわけで、保護司として、まずはしっかりと対面し、真摯に話を聞きながらその思いに寄り添うことが大事であると感じました。

小松支部東分区　山本　直樹

幼少期の体罰、性加害、言葉の暴力などが原因で、青年期にドラッグ、暴力など犯罪に繋がる事案となることが良く理解できました。我々、保護司として何ができるのか、非常に重いテーマではありますが、今後も、有識ある方々の講話を拝聴し、研鑽を重ねていきたいと痛感させられた研修でありました。広報担当者としても、このテーマを特集した掲載に取り組んでいきたいと思います。

小松支部南分区　北原　華蓮

わたくし達の活動の中で対象者の心理を知ることは主題です。言葉の裏にある本当の気持ちが知れたならば、どんなにか楽しい面接となることでしょう。国家資格である公認心理師の上岡所長のお話は大変興味深いものでした。と同時に、所長のお人柄、佇まいはあたたかくて大きな優しさがあり、講演の間は実に心地良いひと時でした。感謝申し上げます。引き続き当保護司会での心理学特別講座を継続開講して頂きたいと念願しております。

小松支部北分区　日野　暁洋

私は初めてこの自主研修会に参加させていただきました。「生きづらさと非行・犯罪」という内容のお話しでした。子ども時代の経験が、その子どもが大人になった時に影響を与えているということ。子ども時代のこころのケガともいうのでしょうか。便利で快適な時代ですが、反面こうした逆境的体験のある人が増えてくるのだろうと思いました。

能美支部　中川　和信

昨年11月に開催された心理学の4回講座に参加しましたが、今回は、臨床心理士であり公認心理師でもある上岡金沢保護観察所長から、生きづらさと非行・犯罪をテーマにお話しを聞くことができました。犯罪や非行には、子ども時代の虐待など逆境的体験が影響していることが多くあるとのことでした。保護観察の際には、対象者の生い立ちなども事前に頭に入れて対処することが重要であることを再認識しました。心理学に関することを学ぶ機会が多くあり、今回も大いに参考になる講話でした。

視察研修
～富山刑務所～

視察研修に参加して

研修部会　江 畑 いずみ

令和5年11月14日㈫富山刑務所へ視察研修に行って参りました。

刑務官の方々に、受刑者の生活スペースや運動場、刑務作業工場等を案内していただき、受刑者が常に監視下に置かれる生活のもと、作業に取り組んでいる様子が見て取れました。無機質な長い長い通路が印象的でした。

刑務所は、単に罰を与える場所ではなく、一人一人の矯正プログラムを決め、適切な改善指導を行い社会復帰を目的とする施設でした。自由はなくとも人権は守られ、医療を受け、衛生的で規則正しい生活が送れるようになっていました。

受刑者の多くは30代～60代で、本来ならば社会において働き盛りの世代であります。この受刑者たちが刑に服する間、国の税金を使い、納税をしていないという事実からも、いち早く社会復帰をして就労し、居場所を見つけてもらうというのが大きな課題であると聞きました。

私たち保護司も犯罪防止や再犯防止活動に尽力し、関係機関と連携を取りながら、より良い地域社会のため貢献できるよう取り組まなければならないと認識しました。

法務大臣表彰を受けて

小松支部南分区　髙畠　明美

この度、令和5年度法務大臣功労者顕彰式に於いて日頃の更生保護活動が認められ、法務大臣賞を頂き身に余る思いで感謝の気持ちでいっぱいです。これも偏に金沢保護観察所の皆様、保護司会の皆様の温かいご指導、ご支援のお陰と心よりお礼申し上げます。

「保護司」耳にしたことはありましたが、まさか自分が。自問自答した末の船出でしたが、自然体で自分らしくをモットーに一歩一歩歩んで対象者の社会復帰の手助けが出来た様です。又、私の20年の活動の時、5年間の観察対象者を担当。観察所や先輩保護司のご指導を仰ぎながら進めました。最初は口数も少なく暗いイメージでした。彼女は体調不良以外は殆ど休まず来訪。年月の経過と共に表情の変化にほっとしました。彼女の努力と強い精神力で無事満期終了を迎えることが出来、少しは力になれたかな…。私には忘れられない対象者となりました。

これからも色々な人のご縁を大切にしていきたいと思います。有難うございました。

小松支部中分区　徳山　知子

この度は、法務大臣表彰受賞の栄誉を賜り、身に余る光栄と感謝を申し上げます。

保護司の仕事に携わるようになったきっかけは、退任なさる保護司の推薦を頂いたからです。そのお話を頂いたときは、少年の犯罪に至る心理を知りたいと思っていましたので、迷わずお引き受けしました。

少年を担当する事が多かったのですが、月に２度の面接では、適切な対応がとれたのか、心に寄り添うことができたのか、思い悩む日々でした。その中でも薬物使用の対象者は、解除の後も再犯し、力不足を痛感しました。ブラジル人の対象者は、言葉は通じても心が通じず大変苦労しました。沢山の対象者を送り出して来ましたが、それぞれに幸せな人生を歩んでくれることを祈っています。

これからも保護司会活動、犯罪予防活動などに精一杯尽力させていただきたいと思っております。

［心理学特別講座］

■日時　令和5年11月6・13・20・27日（月）
10時半から12時まで（90分 4回コース）
■場所　小松市第一地区コミュニティセンター
公立小松大学准教授　木村　誠 氏による心理学特別講座

令和5年11月に、公立小松大学准教授　木村　誠氏による心理学特別講座が開催され、保護司・更生保護女性会員計31名が受講しました。

『釉裏銀彩の仕事』

チャリティ協力作家（陶芸）　中田　一於

現在私の手掛ける釉裏銀彩の仕事を始めてやがて45年になろうとしている。この仕事を始めるきっかけは、薫陶を受けた三代徳田八十吉先生の影響で日本伝統工芸展に出品するようになり、先生からは公募展の中で残っていくには独創的かつ個性的な作品を作らないといけないとの助言を受けました。当時、作品に金箔で表現する釉裏金彩の作品を吉田美統先生が発表しておられ、それ以前にも何人もの高名な先生が発表しておられた。私は清楚で凛とした輝きを持ち、時には冷たくも見える銀箔という素材にひかれていて、銀箔を使って釉裏銀彩の作品を作りたくて試行錯誤を繰り返し出品した淡青釉裏銀彩の鉢が受賞した。そして早45年になろうとしているが、施す釉薬も初期の淡青釉から淡桜釉、紫苑釉、白銀釉と増え、文様も形も初期から見れば表現方法も随分と変化してきた。

釉裏銀彩への思いは熱くまだしばらくは頑張ろうと思う今日この頃である。

令和5年度 石川県更生保護功労者顕彰式典受彰者

●法務大臣表彰　髙畠　明美・徳山　知子
●全国保護司連盟理事長表彰　宮西　健吉
●石川県知事感謝状
北川　潔・山形　彰人・和田　愼司
●中部地方更生保護委員会委員長表彰
福島日出夫・南　裕子
●中部地方更生保護委員会委員長感謝状
（更生保護事業推進協力チャリティ作家）
野村　大仙（能美市）
●中部地方保護司連盟会長表彰
柿原　勧・南　知子
●中部地方保護司連盟会長表彰（家族功労者）
和田　節子（愼司）
●石川県保護司会連合会会長表彰
荒木　達人・石川　和之
江畑いずみ・田中　洋栄

新任保護士の抱負

新任にあたり

小松支部東分区　東木　宏充

昨年、地域の先輩よりお話を頂きお受けしたものの、研修で頂いた沢山の資料を見ると、これは大変な事を引き受けてしまったと感じておりました。ゆっくり深め取り組もうと思っておりましたが、急に読み深める事になりました。保護司としての心構えや、対象者に対してきっかけや環境、人それぞれではありますが、対象者が一つ一つ出来る事を聴いて、何かしら心に寄り添って一歩踏み出すお手伝いになればと思っております。私自身も良く聞く耳を持つ勉強と心掛け、僅かでも何か心に伝わればと取り組んでまいります。

本年は、元旦に能登に大きな災害がありました。家や家族を亡くしてしまう大きな悲しみに見舞われました。心よりお悔やみ申し上げます。社会も混沌とした時代でもあります。人は、誰にもかわれない大切な何かを持っているといつも思っております。少しでも出来るところから、人生を意味のあるものにして参りたいと思います。

小松支部東分区　若本　久勝

昨年（令和5年10月）から保護司になりました若本久勝でございます。昭和33年生まれの65歳です。仕事は農業で、稲作農家です。人形劇、そして合唱を若い時からやっています。1985年「人形劇団ほうき星」を立ち上げました。コロナ禍で公演ができなかった時、YouTube に動画をアップしていました。4作品あります。人形劇団ほうき星若本久勝で検索してみてください。合唱は「若杉合唱の会」（混声合唱）と「こまだん」（男声合唱）の2つの合唱団で歌っています。

自己紹介が長くなりました。新任にあたりということですが、まだ何もわかりません。金沢での研修、富山刑務所視察、おびし荘での研修など初めての経験でした。実際にどのようなことになるのか不安もありますが、今は誠意をもってあたるしかないのかなと思っています。

研修会場にて新任挨拶　右から土山、日野、東木、若本さん

小松支部北分区　日野　暁洋

令和5年10月より保護司として、新たにお世話になります、日野暁洋です。

私は、保護司のお話をいただいた時に、イメージして思っていたのですが、保護観察を受ける人に、寄り添って、諸問題を通して私も教えてもらう役割を保護司というのだろうと思ってます。〝保護〟しつつ〝司る〟人って漢字ですからね。どんな人に対しても、対象の方とも敬意を持って接していきたいと思っております。

能美支部　土山　信英

保護司としての拝命をいただいてから更生保護の冊子を読ませていただきました。その中で特に心に響いたのは『再犯をせずにいられたのは自分を必要としてくれる人がいたから』という文章でした。

私は仕事で、発達障害がある不登校の児童とかかわっています。その保護者との面談の中で『私（子ども）なんかどうなってもいいと言っているけれど、その子どもが能登地震の後に「炊き出しの仕事があったら私もしたい」と言ってきた』と話されました。私は自分の存在意味を探していて認められたいのだなあと強く感じました。各々の存在を大切に感じられるような支援ができるような保護司になれればいいなあと思っています。

〈退任〉
清水　優 氏

〈訃報〉
上村　英一 氏

社明作文コンテスト入選作

優秀賞　石川県BBS連盟会長賞

「つながる」

小松市立板津中学校2年　佐伯　優花

テレビや新聞では毎日のように、事件、事故について報道されている。私は、そんな報道を見るたび、「世界ではそんなことが起こっているんだな」と他人事のように考えてきた。

だが、そんな言葉だけで終わらせてはいけない。犯罪、事件の報道が毎日流れてくる。それを、当たり前にしてはいけない。今の世の中は、それが「当たり前」で「仕方のないこと」なのだ。それを変えるためには、どうすればいいのだろうか。

まず、犯罪、非行がどうして起こるのかについて考えた。犯罪、非行が起こる理由が分かれば、対策などをとることも可能になるからだ。「犯罪」、「非行」はそれぞれ「法律によって禁止されている行為で刑罰の対象になるもの」、「人として行うべき正しい道を外れた行為」のことを指す。でも、犯罪、非行を犯した人全員が、最初から道を外れようとして外れたわけではない。

私は、周りの環境、周りの人の言動によって犯罪、非行が起こると思う。なぜなら、家族がいなかったり、友達との人間関係がうまくいかず、孤独を感じたり、仕事やお金がなく生活が大変だったり、病気や障害があったりするため、生きる喜びを感じられなかったり、社会で生きづらいと感じる人が犯罪、非行を起こすことが多いからだ。そして、このような人たちは、再び犯罪、非行を起こすことが多い。犯罪、非行を起こしてまで、必死に伝えようとしたことが、なんの意味もなく終わり、受け入れる環境が一つも変わっていなかったらどうなるのだろう。さらに、一度罪を犯した人は、まわりから差別を受けたり、冷たい目で見られてしまうことが多い。そんな社会だったら、再び罪を犯してしまうかもしれない。

では、どうしたらそういう人たちの犯罪、非行、再犯をなくすことができるだろうか。

それには「つながり」が必要だと私は考えた。信頼できる良い仲間をもつことができれば、犯罪、非行を起こす前に止めてくれるかもしれない。そして、仲間に自分の気持ちを相談することができれば、気持ちが楽になると思う。他にも、更生しようと努力している人の手助けをする保護司さんや、民生委員・児童委員の方への相談で気持ちが楽になり、救われる人もたくさんいるはずだ。そして、このためには、「人とのつながり」が必要不可欠だ。

しかし、こんなふうに人を救うような大きな事をしなくても、普段の生活での仲間との関わりを大切にしたり、地域の人へのあいさつ、自分とはまったく違うような人を差別せず、仲良くしたりして、人とのつながりを広げたり、深めたりすることで、周りの人が犯罪、非行をすることを防ぐことができるだろう。さらに、それが広がっていけば、犯罪、非行をする人はいなくなるのではないだろうか。

私は、「社会を明るくする運動」について考えて、自分もこの世界の一員として、世の中で起きていることを自分とは関係のないことと、考えてはいけないと気づくことができた。

だから、これからは、自分にできることをして、世界中の人が不安なく暮らせる犯罪、非行のない世界を作ることができたらいいと思う。

小松能美保護区保護観察件数等／2月1日現在の増減比較数

単位（件）

種　別	1号 家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	2号 少年院から仮退院を許された者	3号 刑務所から仮出所を許された者	4号 刑事裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者	生活環境調整 保護観察前に要する、身元引受人及び帰住環境の適否調査と調整作業
令和５年	7	0	1	5	13
令和６年	6	1	1	3	18
増　減	−1	1	0	−2	5

最近の保護観察件数等の動向

保護観察事件は、1号、4号ともに減少傾向にある。一方で生活環境調整事件は、増加傾向にある。
男女の割合については、保護観察対象者に女性が2名のみであり、その他は男性が占めている。

小松支部だより

保護司適任者の新規確保が喫緊の課題です。現在の支部会員数は38名で、一時より7名の減少です。令和5年10月に3名の方が新たに加わりましたが、今後2年以内に定年退任される方が5名おられます。研修や分区・部会活動に積極的に参加していただける方を、毎年2～3名確保できるよう、会員同士の情報交換や保護司会活動の啓発・広報に努めていきたいと思います。

能美支部だより

半世紀に渡り発刊してきた「能美更生保護」を、さらに歴史を重ね次世代へ更生保護活動を伝えていくために能美支部保護司の方々が行政、教育関係者並びに更生保護にかかわる関係者の皆様のご支援で51号を発刊することができました。今回も所属の全保護司に原稿を依頼し、保護観察をはじめ保護司会活動に参加しての感想などを掲載することで発刊に携わってもらいました。みんなで作り上げた機関誌として誇りを持っています。

また、保護区の重点課題でもある適任保護司の安定的確保では、能美支部でも1名の新任保護司が任命されました。現在16名の保護司が能美支部内で活動しています。今後も退任される保護司がいますので、保護観察の任務だけでなく更生保護活動にも参加できる適任保護司の安定的な確保に向けて行政とも連携しながら進めていきます。

教育現場からの声

「創立40周年を迎えて」

小松市立板津中学校
校長
本　美紀

本校は先輩から後輩へ良い伝統が思いをもって受け継がれている学校です。今年は創立40周年を迎え、記念文化祭として特別に「板津祭」を企画しました。自分たちの手で40周年をお祝いし、とびっきり楽しい思い出に残る1日・時間を創り上げることができました。「十人十色～ここから始まるみんなの未来～」のスローガンのもと、さまざまな困難があっても投げ出さず、その都度知恵を絞り、自分色を輝かせ、お互いに歩み寄り認め合い伝え合うことができたからこそ実現できたことでした。得意不得意があるからこそ補い合える。誰かが誰かのために動いているから成り立っている。そして自分はその大切な一員であるということを、誰よりも強く実感できたのは生徒たち自身だったと思います。

子どもたちが将来予測困難な社会を幸せに生き抜いていく力をつけるため、これからも、いろいろな人・色・個性を大切にした学校づくりを進めていきたいと考えています。

編集後記

元旦、16時10分に能登半島を襲った地震は、いとも簡単に人々から平凡な日常を奪ってしまいました。保護司仲間は、今も大変なご苦労をされています。

今、私たちができることは何かを考え一生懸命活動しましょう。

〔山本　直樹〕

※お問い合わせ 事務局
TEL0761-46-5105　FAX0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aqua.plala.or.jp
URL http://hogoshikai.org

発行日　令和6年3月20日
発　行　小松能美保護区保護司会 広報部会
印　刷　マルト株式会社

ZERO CARBON FACTORY
この印刷物は Scope1、2のCO₂排出量を実質ゼロとした工場で印刷されています。